見本

新時代の保育双書

保育内容
人間関係

第2版

みらい

見本

はじめに

藤子・F・不二雄作の漫画「21エモン」では、21世紀は夢の世紀として描かれている。科学が進み、超高層住宅での家事はロボットが担い、宇宙旅行が行われ、当時将来への夢と希望を信じて疑わなかった。21世紀を迎え成熟社会となり、女性の社会参加も進み、努力次第で自己実現できる社会が到来した一方、経済格差が教育格差を生み、2016年の「ひきこもり」人口は56万人ともいわれている。

今後、少子高齢化が進み人口減少に転じたことが引き起こすであろうさまざまな課題が予想されている。労働者不足による外国人の流入と高齢者の労働延期など多様性が増す社会で、異なった人々を排除せず皆が支え合う共生していく力が必要となる。また、地球温暖化による災害、テロ等の宗教や民族の対立からの脅威、エネルギーや社会保障の問題等、日本が破綻せず持続可能な豊かな社会を力強く切り開いていく、その当事者は、目の前の子どもたちである。

『人生100年』時代といわれ、100年生きるだろう子どもたちの人間形成の基礎である幼児期に、しっかり確実に心を込めて丁寧に対応される心地よさを味わい、他者から自分の存在を肯定的に受容されることで、子どもは自身を肯定的に受け入れることができる。自我が育ち仲間とのつながりが深まる中で自己主張をぶつけ合う葛藤経験、話し合いを繰り返し互いに折り合いをつける経験、仲間の一員として役割を分担し協同して粘り強く取り組む経験など、他者と思いや考えを出し合いながら挑戦する勇気と、協力してやり遂げ、達成感を味わうこと経験は、自信や自己肯定感を育むとともに、答えのない問題に力強く向かっていく力を養っていく。

子どもたちは、ぶつかり合いや葛藤を繰り返すことで、メンタルが強くきめ細かくなっていく。私たちは、そんな時も明るい希望とこうありたいと願うビジョンを共有し、援助ができる資質が必要である。

将来子どもたちが、明るくタフに人生を謳歌できるために、われわれ保育者が存在する。それはなんと希望に満ちた尊い仕事であろうか。

現場の先生方、保育を学ぶ学生の皆さん、育児中の保護者の皆さんにわかりやすいよう、できるだけ現場の問題や実際の事例を交え、さらにそれを裏づける資料を盛り込むことを心がけた。それぞれの立場で、園内研修や授業、育児等での保育力の一助になれば幸いです。

最後に本書の出版に際し、辛抱強くご支援いただきました株式会社みらいの米山拓矢氏ならびに小川眞貴子氏に心より感謝申し上げます。

2018年１月

編　者　濱　名　　浩

見本

●目　次●

はじめに

第１章　未来の社会を生きる子どもたちに求められる幼児教育と「人間関係」

第１節●幼児を取り巻く現代的課題……10
1 ―― 少子高齢化・グローバル化で変わる社会　／10
2 ―― 人工知能（AI）等の進展で　／10
3 ―― 環境のリスク　／11
4 ―― 育児のリスク－少子化での親子の実態－　／12
5 ―― 未来を生き抜く社会の担い手の育ち　／15
第２節●21世紀型の教育……17
1 ―― 幼児教育で育む資質と能力　／17
2 ―― 幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿　／19
第３節●領域「人間関係」のねらいと内容及び配慮事項……22
1 ―― 乳児・３歳未満児の養護と教育　／22
2 ―― 乳児保育にかかわるねらい及び内容　／23
3 ―― １歳以上３歳未満児の領域「人間関係」のねらいと内容　／25
4 ―― ３歳以上児の領域「人間関係」のねらい　／29
5 ―― ３歳以上児の領域「人間関係」の内容　／30
6 ―― 資質・能力を育むための人間関係の新たな視点　／37
コラム：マシュマロテスト　／39

第２章　子どもの人間関係をめぐる課題と将来像

第１節●少子高齢社会における子どもの行方……40
1 ―― 少子高齢社会とは　／40
2 ―― 少子高齢社会が引き起こす問題　／41
3 ―― 求められる保育サービスの向上　／42
4 ―― 少子化が加速していくなかで子どもに求められる姿　／43
第２節●多様化する家族形態が抱える諸問題と子育て支援……43
1 ―― 家族形態の多様化　／43
2 ―― 多様化する家族形態が抱える諸問題と支援法　／45

見本

第 3 節●社会の変化にともなうこれからの子どもの育ち……47
1 ―― 指針・要領等の改定の背景　／47
2 ―― 将来の子ども象　／48
コラム：少子化と保護者に寄り添う子育て支援　／50

第 3 章　子どもの人間関係①－おおむね 0 歳から 3 歳未満－

第 1 節●愛着と信頼関係の形成……51
1 ―― 特別な関係である母子関係　／51
第 2 節●人間関係の発達と情緒の安定……59
1 ―― 情緒の発達と人間関係　／59
2 ―― 受容されているという安心感　／60
3 ―― 居場所づくりと帰属意識　／61
第 3 節●自我の発達　－自己主張と自己抑制－……62
1 ―― 自我の発達における自己感　／62
2 ―― 自己調整　／67
コラム：子どものウソ　／73

第 4 章　子どもの人間関係②－おおむね 3 歳以上－

第 1 節●他者への意識と協同での生活や活動、自律の芽生え……74
1 ―― 他者意識の形成　／74
2 ―― 協同生活や活動　／76
第 2 節●いざこざやトラブルから培われる精神的回復力……78
1 ―― いざこざやトラブルの意味　／78
2 ―― 自律の芽生えを育む　／80
3 ―― 精神的な弾力や回復力を培う　／81
第 3 節●道徳性と規範意識の芽生えとモラル意識の狭間……82
1 ―― モラル欠如の時代　／82
2 ―― おとなと子どもの葛藤とモラル意識　／83
3 ―― コミュニケーションとモラル意識　／84
4 ―― 他者の側に視点をおいた人間関係へ　／85
コラム：きまりが遊びや生活を楽しくする　／87

見本

第５章　遊びと人間関係の発達

第１節●遊びの重要性……88
1 ―― 子どもにとっての遊びは重要な学習　／88
2 ―― 遊びの分類と発達　／89
第２節●遊びのなかで育まれる人間関係……90
1 ―― さまざまな感情の交流による人間関係の広がりと深まり　／90
2 ―― 自発性の発揮から協力へ　／92
3 ―― 協同して遊ぶようになるために　／94
第３節●子どもにとっての遊びの意味を見取る……96
コラム：ドキュメンテーションとポートフォリオ　／99

第６章　保育者に求められるもの

第１節●「育ての心」と「共に育ち育て合う心」……100
1 ―― 根底となる「育ての心」　／100
2 ―― 専門家の自覚　／101
3 ―― 共に育ち合うシステムづくり　／102
第２節●専門性としての実践的思考とカリキュラムづくり ……103
1 ――「いま・これから・これまで」をとらえる　／103
2 ―― カリキュラム・マネジメント　／104
第３節●人間関係を育てる実践の原理 ……105
1 ―― かかわりの場の生成と援助　／105
2 ―― 情緒的に安定できる場と絆（きずな）　／106
3 ―― 仲間とかかわる場をつくる援助　／107
4 ―― 異質な経験をしている子とかかわる機会　／109
5 ―― 地域社会とかかわる暮らしづくり　／110
コラム：シャボン玉遊びにみる保育者の援助　／112

見本

第７章　保育者に求められる援助の視点①－自立に向けて－

第１節●年齢別にみる援助の視点 …… 113
1 ―― 乳児保育（０歳児クラス）の考え方と援助のポイント　／114
2 ―― １～２歳児（１歳児クラス）への援助のポイント　／117
3 ―― ２～３歳児（２歳児クラス）への援助のポイント　／117
4 ―― ３～４歳児（３歳児クラス）への援助のポイント　／118
5 ―― ４～５歳児（４歳児クラス）への援助のポイント　／119
6 ―― ５～６歳児（５歳児クラス）への援助のポイント　／120
第２節●自分でできることは自分でする …… 121
1 ―― 身辺自立（食事・排泄・着脱・自分のものの始末）　／121
2 ―― みんなとの生活のなかで　／124
第３節●遊びを楽しむ …… 124
1 ―― 遊びの本質である自発性の意味するところ　／124
2 ―― モノにかかわるプロセスを含んだ“一人遊び”　／126
第４節●保育者、友だちと共に過ごすことの喜び …… 128
1 ―― 一緒にいることの“心地よさ”　／128
2 ―― 共振的関係の構築　／129
第５節●遊びや活動をやり遂げる …… 131
1 ――「合意の形成」ということ　／131
2 ―― 人とかかわる基盤を築くために　／132
コラム：キレイごとの“仲よし”は、もうやめよう　／135

第８章　保育者に求められる援助の視点②－協同に向けて－

第１節●友だちと共感する －協同に向けての第一歩－ …… 136
1 ―― 大好きな友だちとは共感をもちやすい　／136
2 ―― 友だちとの共感を深めるための保育者の援助　／137
第２節●伝え合いと相手の思いへの気づき …… 138
1 ―― 互いの主張がぶつかりあうとき　／138
2 ―― 互いが主張し、相手の思いに気づくための保育者の援助　／139
第３節●友だち同士をつなぐ …… 140
1 ―― つなぐことで生まれる共感　／140
2 ―― 友だち同士をつなぐための保育者の援助　／141
第４節●友だちへのあこがれと認め合い …… 142
1 ―― 共感が「集団」を育てる　／142
2 ―― 友だちへのあこがれと認め合いを育むための保育者の援助　／142

見本

第５節●必要とし合う友だち関係 …… 143
1 ―― 遊びを通じてお互いを認め合う ／143
2 ―― 友だちと結びつくさまざまなパターン ／144
第６節●協同する経験 …… 145
1 ―― 協力することでできる遊びを経験する ／145
2 ―― 環境の設定とタイミングのとり方 ／147
第７節●集団生活での道徳性・規範意識の芽生え …… 147
1 ―― 集団とルールにおける葛藤と規範意識 ／147
2 ―― 規範意識の芽生えを養うためには ／148
第８節●地域の人々とのかかわり …… 149
1 ―― ふれあいが地域の教育力の再生につながる ／149
2 ―― より豊かな人間関係を築くために求められる保育者の援助 ／150

第９章　人間関係を結ぶ保育

第１節●遊びでつなぐ友だちづくり －三項関係－ …… 153
1 ―― モノを仲立ちとして関係をつくる ／153
2 ―― 想像から創造への遊び ／154
第２節●役割分担から得られる貢献意識を育む …… 155
1 ―― 遊びのなかで役割分担をし、役割を果たす ／155
2 ―― クラス集団のなかで役割分担をし、役割を果たす ／156
3 ―― 役割を果たすなかで生まれる貢献意識 ／157
第３節●友だちのよさに気づく保育と支持的風土 …… 157
1 ―― 友だちのよさに気づかせる保育者のかかわり ／157
第４節●目的意識と体験の関連づけによる遊びと活動の深まり …… 158
1 ―― 目的意識をもつ ／158
2 ―― 体験がイメージを広げ、遊びや活動がひろがる ／159
3 ――「ぶつかり」を学びにしていくかかわりを ／160
第５節●協同性を育む …… 163
1 ―― 友だちと一緒に遊ぶということ ／163
2 ―― 一人ひとりの子どもを支え集団に広げる ／163
3 ―― 協同的な活動から協同性へ ／164
第６節●非認知能力 …… 165
1 ―― 非認知能力とは ／165
2 ―― 非認知能力を高める保育者のかかわり ／166

見本

第７節●協同的体験と小学校への接続 …… 168
1 ―― 協同的体験の保幼小間のつながり　／168
2 ―― 生かし合う姿の発達的変化　／169
3 ―― 小学生との交流と接続　／169
コラム：「仲よく」することと「けんかをしない」こと　／171

第10章　保育場面での気になる子どもへのかかわり

第１節●気になる子どもとは …… 172
1 ―― 気になる子どもの現状　／172
2 ―― 保育場面における気になる子どもとは　／173
第２節●活動に集中することが難しい子・友だちにちょっかいを出してしまう子 …… 173
第３節●引っ込み思案な子 …… 175
第４節●保育者を独占したい子 …… 176
第５節●気になる子どものアセスメントとかかわり …… 177
1 ―― 子どもの気になる行動についての情報を整理する　／177
2 ―― 保育者のかかわり・保育の内容を検討する　／177
3 ―― 子どもを育てる保育ではなく、子どもの成長を支える保育を行う　／178
第６節●インクルーシブ教育システム …… 178
1 ―― インクルーシブ教育にかかわる教育施設　／178
2 ―― インクルーシブ教育システムとは　／179
コラム：特別なニーズをもつのはすべての子どもたち　／181

第11章　親の思いと家庭とのかかわり－子育て支援の視点から－

第１節●親は保育者に何を求めているか …… 182
1 ―― 現代の親事情と保育者の役割　／182
2 ―― 親から保育者への要望調査からの考察　／186
第２節●親とのコミュニケーションと信頼関係 …… 188
1 ―― 子育ての悩みの実態　／188
第３節●気になる親への対応 …… 191
1 ―― 親からの要望あれこれ　／191
2 ―― 児童虐待やいじめへの対応とひきこもりの現状　／193
コラム：子育て支援の「あいうえお」と「月火水木金土日」とは？　／197
索引　／198

見本

第1章 未来の社会を生きる子どもたちに求められる幼児教育と「人間関係」

◆キーポイント◆

少子化、待機児問題、教育費問題など注目を集めている子どもの問題は、経済問題だけでなく、日本の将来を左右する大問題である。未来の社会の担い手である子どもたちを、この乳幼児期にいかに安定し、賢く人間性が豊かに育てていくかどうかは、私たちにかかっている。それは重大な使命である。

予測不可能な未来を生きていく子どもたちに、今どのような力を身につけ充実した育ちを援助すべきか、現代の課題と対応すべき力を整理する。

第1節 ● 幼児を取り巻く現代的課題

1 ── 少子高齢化・グローバル化で変わる社会

少子高齢化は加速的に進んでいくと予想されている。高齢者の比率が増え子どもは減少し、労働力人口も激減するとされている。日本の生産年齢人口の減少は、外国人労働者との協働をもたらす。現在でも大企業の約3分の1が外国人留学生を採用しているようであるが、今後外国人労働者が増え、政治・経済的にも、かつてないグローバル社会が待ち受けている。

2 ── 人工知能（AI）等の進展で

GoogleやFacebook、IBMなどの大手IT企業が、人工知能（AI）開発に力を注いでいるが、近い将来には、人工知能がさまざまな判断を行うようになり、社会や生活は大きく変わると予測されている。パソコンやスマートフォン（以下、スマホという）などの情報通信機器はもちろん、すべての機器がネット化し、生活やビジネスがインターネットなしでは成り立たなくなる。

計算や歴史等の記憶は手元のスマホで簡単に解決でき、ゲーム等の余暇や財布までがスマホという、スマホ依存生活になっている。一方で、スマホがどのような構造でどう機能しているか、ほとんどの者はまったくわからない。

見本

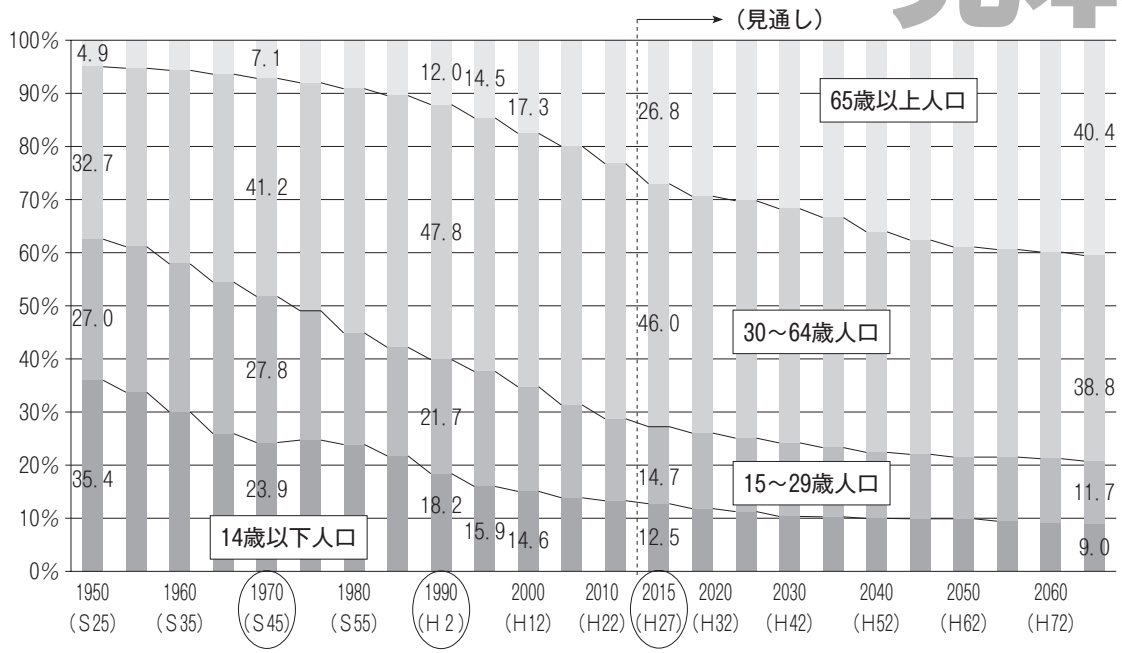

図１－１　年齢区分別人口割合の推移・見通し

注：年齢別人口には年齢不詳の人口を含めていない。

出典：総務省「国勢調査」及び「人口推計」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口（平成24年１月推計）：出生中位・死亡中位推計」（各年10月１日現在人口）、厚生労働省「人口動態統計」

下手をすると、スマホに何もかも頼りかねない。自らが考え、目当てをもって取り組むことができない、スマホ依存人になるリスクがある。

3 ── 環境のリスク

20世紀以来さまざまな産業が発展しつづけ、世界的な人口過剰、過剰消費、化石燃料による気候の変化、地球温暖化、経済成長への競争で資源の減少、環境破壊など、地球レベルで持続不可能な状況に陥ろうとしている。異常気象、データ盗難・詐欺、民族の対立等のリスクは、一人の力や一国の力ではとても対応できない課題で、これからは世界が緊密につながり、他国のことが瞬時に日本にも大きな影響をもたらすこととなる。自分だけという狭い考えでは行きづまるリスクがある。

見本

4 ── 育児のリスク－少子化での親子の実態－

(1) 少子化と母親の置かれた状況

最も身近で基本的な親子関係や育児環境が、ここ10年で激変した。それはかつて類を見ないほどの急変ぶりといってよい。初産の平均年齢は2011（平成23）年より30代となり、経済的事情などからひとりっ子が半数余りを占めるようになった。

家庭での子どもの育ちや親の育児の意識も大きく変わった。核家族化により身近に子育てについて相談できる家族がおらず、スマホなどから育児情報を入手する比重が大きくなった。しかし、インターネット上のあふれる情報のなかには、親の不安につけ込んだり、子どもの発達を無視した民間療法や早期教育の効果をうたう偽情報も入り乱れ、親に不安と混乱を引き起こしている。

また、親同士のつきあい方も変化した。スマホを介してのメールやLINE等のSNSの活用で、言葉や顔を交わさずともつながり、会わない時間にも書き込みの返信などで振り回されている。

自身が育つ過程でイジメなどの体験を受けた親もおり、他者に対し神経過敏になりママ友と関係をつくることが苦手な者もいる。今の子育て親子は孤立ししんどいものといえる。

表１－１　子育てをしていて、よかったと思うこと（複数回答）

	家庭が明るくなる	身近な人が子供と接して喜ぶ	生活にはりあいができる	子育てを通じて友人が増える	子育てを通じて自分の視野が広がる	子育てを通じて自分も精神的に成長する	夫婦の愛情がより深まる	その他	良いと思うことは特にない	わからない
日本（754人）	1 72.9	25.1	3 52.8	5 30.2	3 52.8	2 62.7	27.9	0.3	0.1	3.8
フランス（715人）	1 67.3	24.6	2 58.6	11.2	4 40.8	3 50.1	5 28.1	0.3	4.3	0.8
スウェーデン（700人）	2 72.6	5 52.6	3 59.3	29.1	4 53.7	1 79.9	37.4	1.1	0.3	3.0
イギリス（729人）	1 73.9	20.6	2 53.9	21.5	5 34.4	3 43.8	4 39.1	0.4	3.4	3.7

出典：内閣府『平成28年版少子化社会対策白書』
※お子さんがいない方は、仮に自分が子育てをする場合を想定して回答

見本

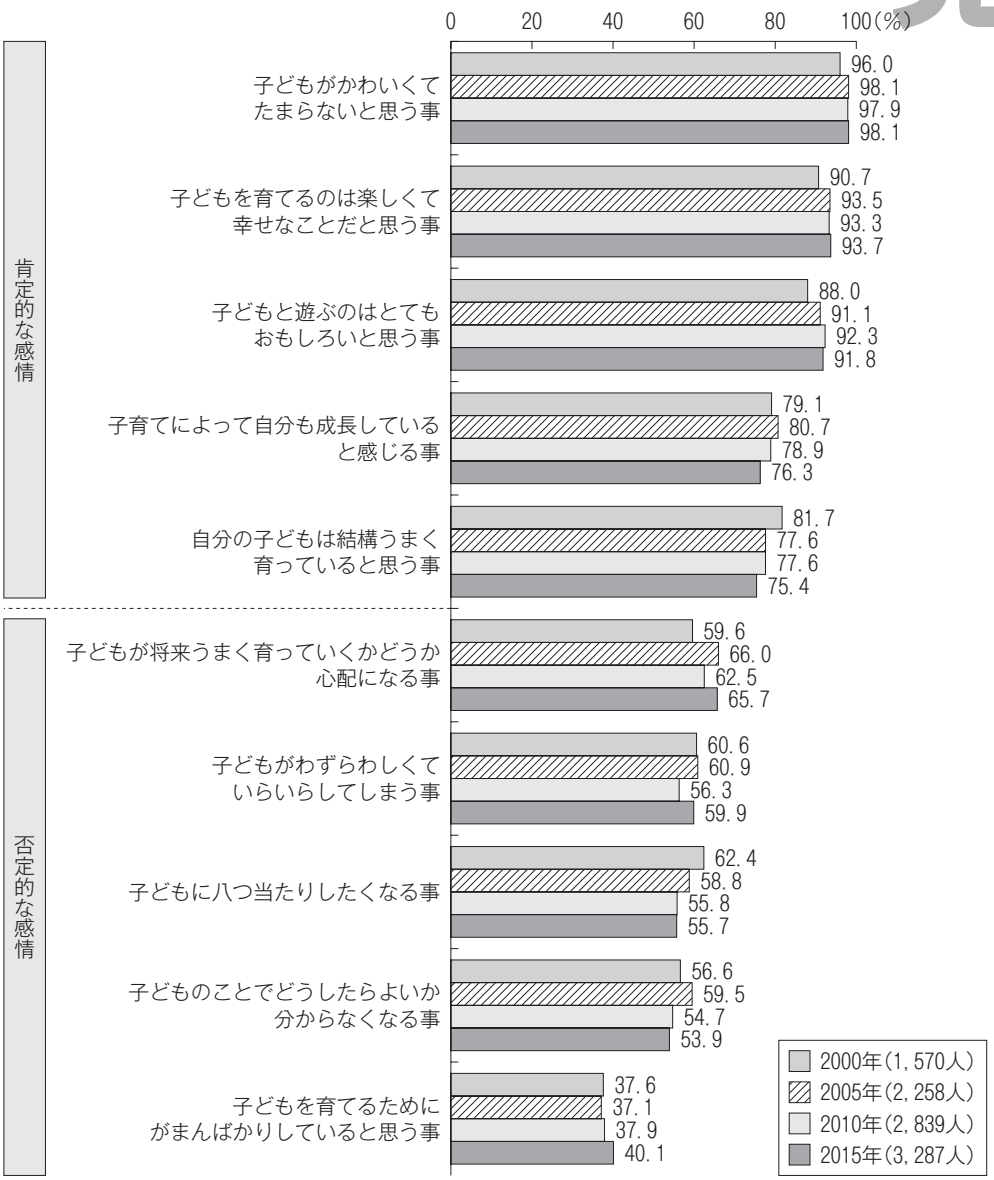

図１－２　母親の子育て意識

注：調査対象は、首都圏（東京都、埼玉県、千葉県、神奈川県）の０歳～６歳の乳幼児を持つ保護者、そのうち１歳６カ月～６歳児の母親の回答を集計。調査時期は、2000年２月、2005年３月、2010年３月、2015年２～３月、郵送による自記式アンケート調査。「よくある」「ときどきある」の回答を集計。

資料：ベネッセ教育総合研究所「第５回幼児の生活アンケート（速報版）」2015

出典：愛育研究所『日本子ども資料年鑑　2017』KTC中央出版　2017年　p.76

見本

いる[1)]。①何か助けを求めた時に的確に応じる敏捷（びんしょう）性、②逆に子どもがシグナルを発信してこない場合は極力子どもの主体的な活動に干渉しない非侵害性、③黒子に徹し、遊びや活動の環境の構造する構造化、④情緒的に温かいあ雰囲気を醸成し、離れたところから見守りのエールを送り続ける、というものである。

保育者や友だちから深く愛されていると実感できるためにも、見守り、応援し続け、一人ひとりのよさをクラスに広げる間接的な援助も、資質・能力の育成にはとても重要である。

●「第１章」学びの確認

①幼児を取り巻く現代的課題を克服し、未来を生き抜く社会の担い手として、どのような育ちが大切かを考えよう。

②「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」は、保育のなかでどのように用いられるかを確認しよう。

③領域「人間関係」の０歳から就学前までのねらいおよび内容の関連づけ、発達的変化を確認しよう。

●発展的な学びへ

①年齢に応じた多くの援助のあり方を分類・整理してみよう。

②気になる図表から、今後の保育者として自分が行えることを具体的に考えてみよう。

引用・参考文献

１）遠藤利彦『情緒的利用可能性の大切さ』教育プロ　2017年
２）社会福祉法人恩賜財団母子愛育会『日本子ども資料年鑑』KTC中央出版　2017年
３）内閣府『平成28年度版　少子化社会対策白書』2017年
４）内閣府・文部科学省・厚生労働省「幼保連携型認定こども園教育・保育要領　幼稚園教育要領　保育所保育指針中央説明会資料」2017年
５）那須正裕『資質・能力と学びのメカニズム』東洋館出版社　2017年
６）国立教育政策研究所編『国研ライブラリー　資質・能力　理論編』東洋館　2016年
７）Ｃ・ファデル、Ｍ・ビアリック、Ｂ・トリリング（岸学監訳）『21世紀の学習と教育の４つの次元』北大路書房　2016年
８）泉千勢編著『なぜ世界の幼児教育・保育を学ぶのか』ミネルヴァ書房　2017年
９）友定啓子・青木久子『幼児教育知の探求　領域研究「人間関係」』萌文書林　2017年
10）汐見稔幸『さあ、子どもたちの「未来」を話しませんか』小学館　2017年
11）澁井展子『乳幼児期の親と子の絆をめぐって』彩流社　2017年

見本

●○●　コラム　●○●

マシュマロテスト

ウォルター･ミシェルは、1960年代にスタンフォード大学のビング保育園の園児にテストを行った。園児がマシュマロ１個の置いてあるテーブルと向かい合って一人で座る。テーブルの上に置いてあるマシュマロは１個だが、研究者が戻るまで席をはなれなかったり、食べたりしなければマシュマロを２個食べることができる。我慢できずにマシュマロを食べた園児もいれば、我慢して２個食べた園児もいる。我慢できた園児とできなかった園児の違いを、その後の50年にわたって追跡調査を行った結果、我慢した時間が長いほど大学進学適性の点数がよく、青年期の社会的・認知的機能の評価が高かった。また、肥満指数が低く、自尊心が強く、目標を効果的に追求し、欲求不満やストレスに対してうまく対応できるということも明らかとなった。これが、行動科学で最も有名なテストの一つであるマシュマロテストである。

我慢できた園児は、マシュマロをもう一つもらうという先にある目的と目的を達成するための条件を思い描き続けた。そのことによって、食べたい衝動を和らげ、さらに気をまぎらわすための方法をとったことによって我慢することに成功できたのである。自らの感情や衝動をコントロールするためには、見通しを持てることがとても大切だといえる。

また、我慢するというストレスに対してうまく対応できるかどうかは、乳児期の愛着形成の育みにも関係する。乳児期に愛着形成が十分に育まれた子は、なんらかの方法で気を紛らわせてストレスに対してうまく対応することができる。一方、乳児期に放任や虐待を受けた場合、ストレスの負荷がかかり続けて、うまく対応することができずに我慢ができない。

これらの結果から、乳幼児に対するおとなのかかわりがその後の人生に影響することがわかる。しかし、園児のときには我慢できなかったのに年を経るうちに待つのがうまくなる子もいれば、園児の時には我慢できたのに年を経るうちに自制の水準が下がる子もいる。園児の時の結果ですべてが決まるのではなく、その後のおとなのかかわりや教育の効果によって将来が変わり得るのである。